【　新人所員紹介　】

英語英文学科　上（かみ）　英明（ひであき）　助教

専門は国際関係史で、アメリカ研究と中南米研究とを橋渡しすることを目指しております。とくにこれまで関心を寄せてきたのが、米・キューバ関係でした。アメリカ合衆国とキューバは2015年に国交回復しますが、そもそもなぜ半世紀もの長きに渡って対立しているのかを疑問に感じ、それを解くために様々な場所で史料調査を重ねております。その過程で、資本主義と共産主義という「東西対立」や、西半球における大国の覇権政策とカリブ海の小国が起こした革命運動とが衝突する「南北問題」を学びました。また、キューバ革命に反発する反革命勢力が合衆国の政治に参加したことに着目し、「移民と外交」がどのように交錯するのか、という新しいテーマにも取り組んでおります。今後については、キューバを含め中南米から流入する多くの移民たちが、合衆国の社会をどう変えていくのか、といったテーマにも挑戦したいです。したがって、合衆国におけるバイリンガル教育や英語単一運動をめぐる議論にも興味を寄せております。新しい動きを見ながら、研究を進めていければと思います。

中国語学科　夏（か）　海燕（かいえん）　助教

今まで主に認知意味論の立場から語彙の意味変化・文法化における規則性や予測可能性の研究に取り組んできた。主として「着点動作主動詞（Goal-Agent Verbs）」（他動詞でありながら動作が動作主から出発し動作主において終結するという他動詞の典型から外れた特徴を持つ動詞）、および意味的に関連のある動詞類の意味拡張を取り上げ、研究を行った。そのうち、中国語においては、一部の着点動作主動詞が意味拡張にとどまらず、受身標識へと文法化するという意味変化の方向性が見られる。中国語動詞由来受身標識について今まで個別に扱う研究が多い中で、着点動作主動詞という新たな視点から統一的に説明を与えるとともに、その類型論的な位置づけも明らかにした。

意味論の研究とともに、共同研究者として基盤研究（B）「移動表現による言語類型論：実験的統一課題による通言語的研究」に関っており、中国語をはじめ、移動表現、特にダイクシス（直示表現）の研究に力を入れている。ビデオ実験を行い、今まで言われてきた「話者領域」が「視覚性」と結びついていること、「視覚性」と「方向性」の競合、さらにその度合いが言語によって異なることを検証している。